

梶原町の環境モデル都市に関する取組



高知県梶原町

梶原町の概要

- 位 置 高知県と愛媛県の境界
四万十川の源流域
- 面 積 23,651ha(森林率91%)
- 標 高 220~1,456m(積雪有り)
- 平均気温 13.4°C/年(過去10年平均)
- 人 口 4,010人(1,796世帯)
- 高齢化率 41.11%(65歳以上)
- 主要産業 農林業

梶原町の地域づくり

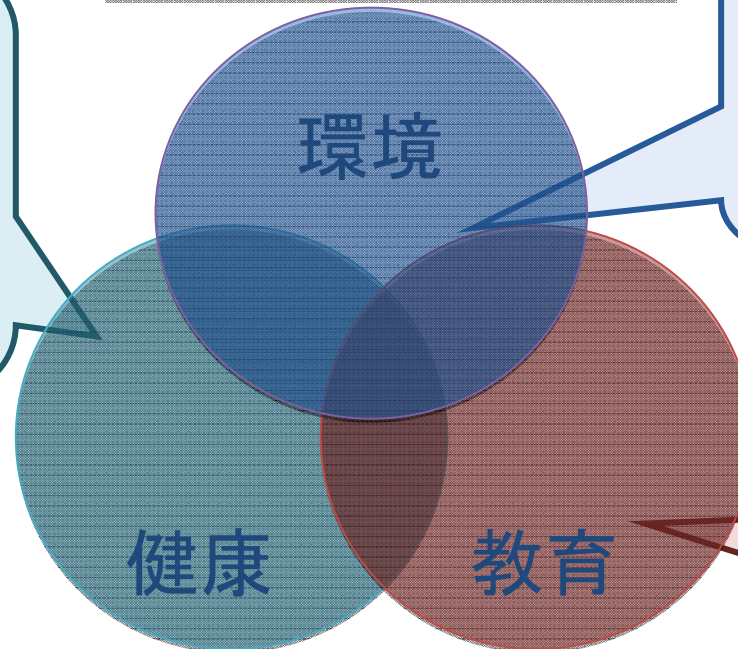
森と水の文化構想 <3K構想>

21世紀への基本理念を、先人の知恵に学び自然と共に、共生と循環の社会を実現するため、環境・健康・教育として、住民と共に笑顔あふれる街づくりをめざす。

<3K構想>

楽しく学び合い、
健康を維持増進
するネットワーク

- ・健康作りは学習
- ・予防重視
- ・森林セラピー



地域の環境条件を活かした
安全・安心な製品の生産

- ・環境モデル都市の取組
- ・FSC認証制度
- ・地産地消

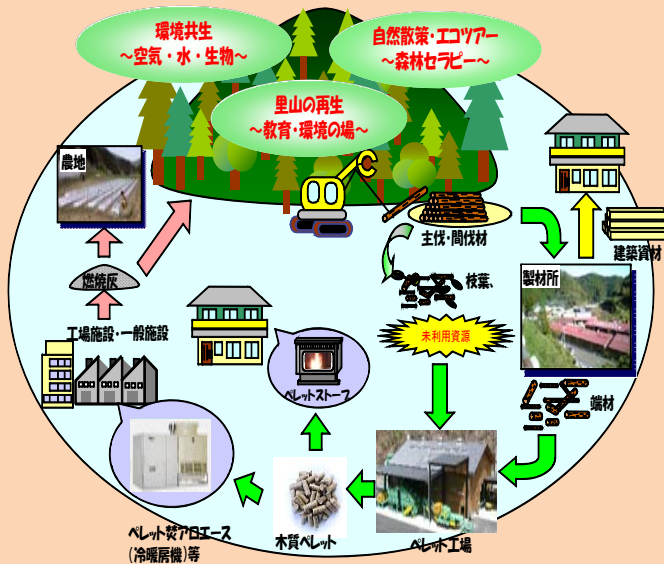
自然環境を活用し
た学習の場

- ・体験学習
- ・協働の森

梶原町の低炭素化への取組の概要

木質バイオマス地域循環モデル事業プロジェクト

- 公民協働による木質ペレットの生産等による地域資源の循環を実現
- 企業との協働の森林づくりを拡大
- 今後、国内クレジット取引を活用した持続的な事業展開を目指す。



CO₂森林吸収プロジェクト

- 確実な森林施業と作業の効率化
 - ・ 風力発電の売電収入等により、森林づくりを推進
- 持続的な森林経営の実現
 - ・ 適切な森林管理によりFSC森林認証を取得。経済的価値が付加され、雇用確保や森林経営の安定等を実現。



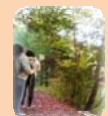
CO₂削減プロジェクト

- 風力発電、小水力発電、太陽光発電の積極的な施設整備により、産業、業務、家庭部門における電力の給率100%を実現。
- 廃食油を回収しBDFを生産。
- ペレット消費機器の普及により木質ペレット消費量を



人・仕組みづくりプロジェクト

- あらゆる世代の人材育成と、都市や企業との交流・連携による地域活力の創出、森林セラピー等の環境産業を推進し、低炭素社会づくりの取組を持続・定着。



風力発電による買電益の環境対策への活用

風車の買電益により、①CO2の排出削減設備の普及と②CO2吸収源の整備を図る。



風車の売電益の一部

① 太陽光発電設備の設置に、**1 kw当たり20万円の補助**
このほか、ペレットストーブ等の設置に**4分の1の補助**



(左) 太陽光発電設備
(上) ペレットストーブ

② 間伐をおこなった**森林所有者に、**
1 ha当たり10万円の交付金を交付



町との
協定

間伐
実施

交付金
交付



間伐の促進と地域林業の活性化によりCO2の吸収を図る

栲原町木質バイオマス地域循環利用の取組

【栲原町、森林組合、高知県、矢崎総業の協働事業】



【搬出・運搬】

【ペレット工場】

①未利用バイオマスの利用促進による
中山間地域の雇用創出

②木質ペレット変換し、
国産エネルギーとして生産

③木質ペレットの熱利用

④荒廃した森林の再生・
水源の維持

設置施設の例

特別養護老人
ホーム



設置例
「栲原町立中学校」
CO2削減量
31トン／CO2／年

【木質ペレット熱利用の効果】

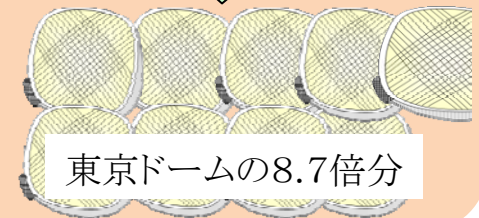
◆ 20年度栲原町内供給施設

- ・バイオアロエース 4施設(6基)
- ・バイオボイラー 2施設(2基)



◆ 年間CO2削減量 348トン／CO2

- ・スギ人工林の年間吸収面積
(348トン⇒40.8ha)



林建協働の取組

建設業と地域の元気回復助成事業
ゆすはら森の3R事業

ゆすはら森の3R推進協議会

建設業
(協会)

梶原町
森林組合

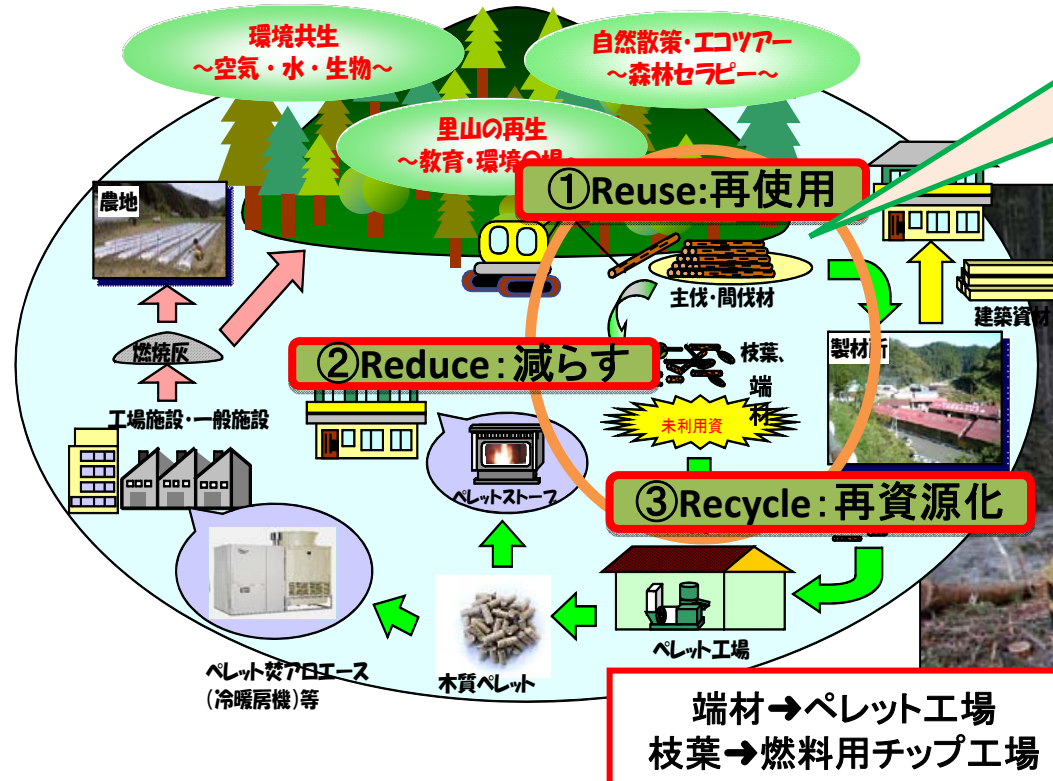
梶原町

高知県

ゆすはら森の
3R事業

建設業と林業が協働し「環境資源」と「経済」が循環する仕組みづくりに挑戦！

環境共生・エネルギー循環型社会の創出



モデル住宅によるLCCM住宅の普及促進

長寿命化のモデル住宅を建て、UIターン・ニ地域居住等の希望者に一定期間利用してもらおう。これを日本初のLCCM(ライフサイクルカーボンマイナス)住宅の先導事例とすることにより、定住促進を図るとともに、CO2削減効果の高い住宅の普及に貢献する。

LCCMとは

木材採取

製材

加工

建設

廃棄

改修

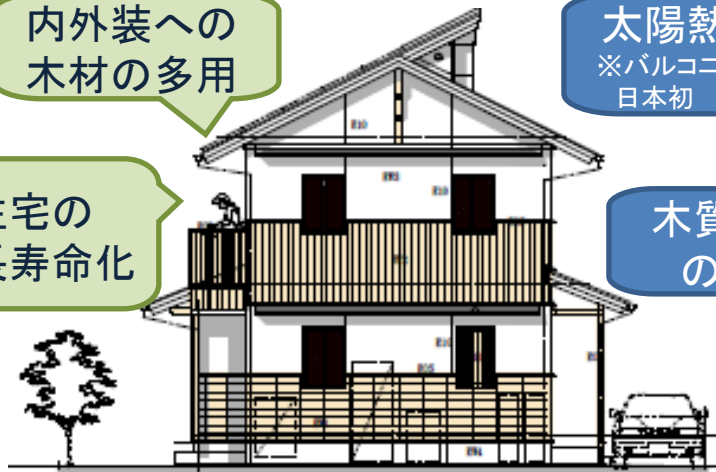
修繕

居住



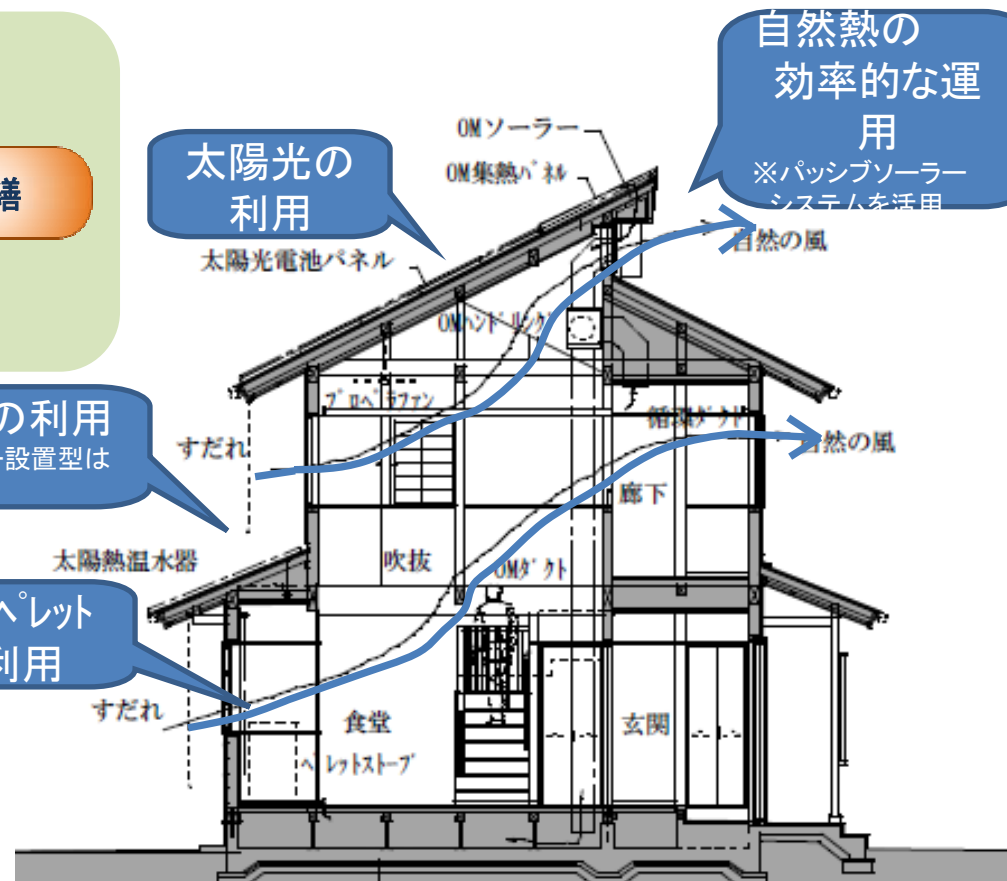
内外装への
木材の多用

住宅の
長寿命化



太陽熱の利用
※バルコニー設置型は
日本初

木質ペレット
の利用



今後の展望

- 地域資源を活かした更なる取組
 - ・ 森林整備、木質バイオマス利活用の着実な推進
 - ・ エネルギー自給機器の設置促進のための風力発電施設の増設
- 梶原町環境モデル都市推進協議会の設置
 - ・ 住民の積極的な取組の促進と産官学によるサポート体制の充実
- 排出権取引の実施
 - ・ 森林整備にクレジットを投入することにより、森林の多面的な機能の向上を図り、さらなる資源の循環利用に資する。

これらの取組により、資源循環と地域の活性化が調和したまちづくりを目指す。

- ・ 2050年に温室効果ガス排出量を70%削減、吸収量を4.3倍増(1990年比)を目指す。
- ・ 循環モデル事業の実施による山村型低炭素社会の実現と地域資源利用によるエネルギー自給率100%超を目指す。

